

2009 年度

悲願の世界大会入賞達成！

世界選手権（ドイツ：ベルリン）

瀧瀬真寿美

20km 競歩 1時間31分15秒（7位）

20キ競歩 瀧瀬7位入賞



女子20キ競歩 1時間31分15秒で7位になった瀧瀬（ベルリン）（共同）

持ち前の粘りで地力誇示

観光名所ランニング
ルク門前のゴールに瀧瀬が7位で飛び込んだ。女子競歩で日本勢として史上初の入賞。地力をつけた。10キの通過は14位だったが、少しずつ前の選手をこえ15キは9位。世界に示し、陸上界に新たな歴史を刻んだ。
27位に沈んだ2年前の前回大会の屈辱、昨年の北京五輪に出場できなかった悔しさを胸に臨んだ今大会。7月のユニバーシアード大会で銀メダル

第12回世界陸上選手権（大塚製薬）が1時間31分15秒で7位に入賞した。同種目で日本選手が入賞したのは初めて。徳島関係の入賞は2005年のヘルシンキ大会女子マラソンで8位入賞した弘山晴美（資生堂）以来、4年ぶり。（14面に関連記事）
瀧瀬は前半から先頭集団につき積極的にレースを展開。中盤以降差を広げられたが、徐々に順位を上げた。15キ通過時点では9位。その後2人をかわしていきこうと思った。わし7位でゴールした。瀧瀬真寿美の話（日本の目標の）メダル1、入賞6の中に入れてよかった。先頭のスパートに付いていけなかったが、少し落として後から上げ

瀧瀬（大塚製薬）7位入賞 世界陸上女子20キ競歩



初受賞

瀨瀬真寿美

Masumi FUCHISE
女子20kmW 7位
1時間31分15秒

文部科学省賞 特別賞 野村胡堂賞

大 金初の男子20kmでは前週一週が後半進み上げて1位とすすまざる成績を残した彼女。翌日の女子20kmは最初の2kmが9分21秒、落ち着いたペースで大集団を形成して始まった。レースが動き始めたのは7km手前、北越女子のカニスキナ（ロシア）が8分50秒のペースで集団が崩れた。

8km手前からはさらに上げて競争優勢をつくる彼女がレースに合った。その中で大集団に残り、前を走ったのが川崎高崎陸女だった。初年大会で10位以下に入賞が見えた彼女は、落ち着く選手を指しての入賞ではなく、最初から勝負しての入賞を望んだのだ。なぜこの日は、前日の男子の準星判定がなかったのと

は一定し、練習に凝り切っていた。「なにかいい所に注意が警音を上げおぼろげなものはかかっては行けど、8kmでは警音が2枚ついていて、次の周回で3枚目を出されたんです。驚くことになるのではと思っていただけ、これほどとは……」トップ集団に行ける陣営をしてみただけに残念です。高橋真寿美と2人で後方からいって入賞を狙うのではなく、1人はメダルを狙って入賞を狙わなければいけない。そう考えた川崎の志地が喉を詰めてしまう結果になった。集団で外側に位置していたのがジャックを受けやすくなった原因だろうと川崎は分析した。

そ こをうまく乗り切ったのが、訓練だった。当時のトップ集団でいくつもりだったが、カニスキナがペースを上げたときは悪いのはか体が弱くなかった。そのときに思い出したのが、練習の距離の性質だった。「自分のペースよりちょっと遅くなったときに落としたり、後ろにうまく上げることもできた。2kmを9分50秒に抑えた調子は、前週よりも体に馴染んだ。7月のこのペース練習が良くて、でも今頃は「自分はいかに遅くもいかないと」思ったのがよかった」と言うように、最初の練習があったことで中盤から体が動き出したのだろう。12-14kmの9分55秒を真高

世界陸上競技選手権大会ベルリン2009
フレッシュジャパンの新風!

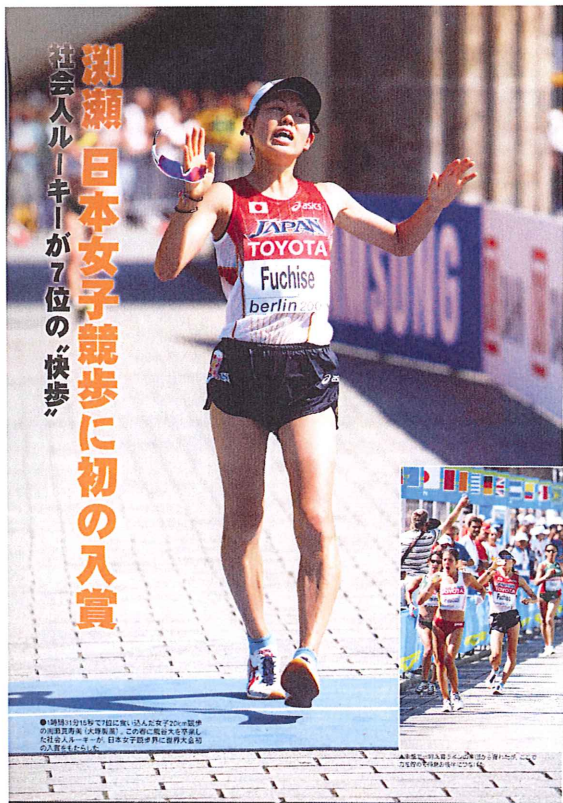


に、9分9秒でリブをまとめた調子は暫くは順位を上り、ラスト1周では1位に、9位と8位では全速で走り、とにかく「走って、精進」と思って、1人抜いて8位に上がったのは分かったけれど、ゴール前で脚が弱くなったと反省が返ってきて、初めてだったからビタリして止まりました。だからゴールした時も、思い切り喜べなかったんです」と苦笑した。結果は、最終順位で失格者も出て7位。日本女子初入賞を達成したが「入賞を目標としていてと先頭を切っていた川崎さんのお陰の入賞だと誇ります」と、先頭への意気込みも忘れられない。川崎は「私は失格だったけど、日本人が戦える状態に『走らな』と脚を鍛え、その気持ちにまだ『第一歩の意気込み』と書いた好きな自画像を見た。大会7日目の男子50km、メダルを狙って東洋に挑んだ山崎勇希が失格という残念な結果に終わった。さらに谷津選手も失格。だが達成した動きを見せていた真瀬は後半伸びて11位を獲得。男子2種目は日本人最高順位を獲得し、今後の20kmでの勝負にも可能性を感じさせる結果を残した。昨年の北京五輪男子50kmで山崎が優勝で初めてオリンピック入賞を果たしたのに続き、今年度は女子が世界大会初入賞を果たした競技多岐。メダルは、種目に上って

■世界陸上の女子20kmW大会日本人最高成績

開催年	大会名	順位	選手	記録
1997年	ベルリン陸上選手権	10位	高橋真寿美	1:28:00
2001年	東京大会	10位	高橋真寿美	1:28:00
2003年	大阪大会	10位	高橋真寿美	1:28:00
2005年	パリ大会	10位	高橋真寿美	1:28:00
2007年	大阪大会	10位	高橋真寿美	1:28:00
2009年	ベルリン大会	7位	瀨瀬真寿美	1:31:15
2011年	大邱大会	10位	高橋真寿美	1:28:00

陸上競技マガジン 10月号



瀨瀬真寿美が7位の快歩、社会人ルーキーが初の快歩

月刊陸上競技 10月号